

会 議 録（要旨）

会議の名称	平成27年度 第3回 小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会
開催日時	平成27年6月18日（木）午後6時30分から午後9時まで
開催場所	小平市健康福祉事務センター 2階 第3・4会議室
議長	松本委員長
出席者	松本委員長、羽貝副委員長、市川(健)委員、市川(徹)委員 出竿委員、菅野委員、窪田委員、鈴木委員、西村委員、樋口委員
欠席者	なし
事務局職員	津嶋都市開発部長、奈良都市計画課長、島田都市計画課長補佐、 鹿島都市計画課主任
議題(案件)	① 報告事項 「まちづくりサロン～PRパネル展」について ② 検討事項 小平市の今後のまちづくりの主な課題について ③ 検討事項 今後の検討にあたり深めたいテーマについて ④ 今後の日程について
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 第3回小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会 議題内容 ・資料2 小平市都市計画マスタープラン改定「まちづくりサロン～P Rパネル展」 ・資料3 第3回小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会 全体構想検討資料 ・資料4 平成27年度小平市都市計画マスタープラン改定スケジュール (予定) ・資料5 平成27年度市民アンケート調査の実施について(案)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
委員長	<p>1 開会</p> <p>本日は傍聴の方がおられますが、傍聴券の裏に注意事項が書かれていますので、ご協力のほど、お願いいたします。</p> <p>それでは、まず、資料確認をお願いします。</p>
事務局	<p>(配布資料を確認。)</p>
委員長	<p>2 報告事項</p> <p>(1) 「まちづくりサロン～PRパネル展～」について</p> <p>それでは、次第に沿って進めたいと思います。</p> <p>「まちづくりサロン～PRパネル展～」についてご報告をお願いします。</p>
事務局	<p>資料1及び資料2をご用意ください。</p> <p>まちづくりサロンPRパネル展は、多くの市民の方に広く、都市計画マスタープランとその改定の取組について知っていただくと同時に、小平市のまちづくりに関するご意見をうかがう場として開催いたしました。</p> <p>日時及び場所につきましては、平成27年3月24日火曜日に中央公民館、3月25日水曜日に小川西町公民館、3月27日金曜日に東部市民センターで、それぞれ午前11時から午後3時まで開催しました。</p> <p>概要としましては、都市計画マスタープランとは、市民アンケート調査結果、まちづくりカフェなどのパネル展示、お気に入りスポット調査、小平市の昔のまちの写真パネル展示、市制施行50周年記念映像の上映を行いました。</p> <p>今回は、図書館に保存されていた昭和30年代を中心とした市内の写真を展示したため、その写真にまず興味を持たれた市民の方が多く、その写真をきっかけに昔の話をしながら、これからのまちづくりについて話すことができ、非常に有意義な場であったと考えております。</p> <p>今後も、不特定多数の市民の方を対象としてご意見をお聞きする場として、機会を捉えて実施していきたいと考えております。</p> <p>説明は以上となります。</p>

委員長	<p>ご質問はありませんか。今後も行われるということですので、よろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>3 検討事項</p> <p>(1) 小平市の今後のまちづくりの主な課題について</p> <p>続いて、検討事項に入りたいと思います。本日の検討事項は2つです。1つは「小平市の今後のまちづくりの主な課題について」、2つ目は「今後の検討にあたり深めたいテーマについて」となっています。今年の秋冬頃までに全体構想を固めたいということですので、その中でどのようなことを課題にしていくかということについて本日は議論したいと思います。</p> <p>それでは、主な課題について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3「第3回小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会 全体構想検討資料」をご用意ください。また、本日は都市構造の説明もいたしますので、市内の地図として「小平市公共交通マップ」もあわせてご参考ください。</p> <p>それでは、資料2の1ページをご覧ください。簡単に、前回の検討委員会の内容を振り返りますと、「全体構想 構成見直し案」として、1ページの右側にありますような見直し案をお示して、ご議論いただきました。</p> <p>続いて、その中でも、「今後のまちづくりの重点」は何かということ、ご議論いただいたところです。本日は、そのご議論のなかで、特に重要であるというご意見が多かった「将来の都市構造について」と「小平市らしいまち、小平市らしいライフスタイル」について、後ほど議論を深めていただきたいと思います。</p> <p>まずはその前に、小平市の現在までの都市構造、これまでのご議論や市民意見などから考えられる「まちづくりの課題」について、説明いたします。</p> <p>まず、小平市の都市構造についてです。2ページの右側をご覧ください。</p> <p>市の成り立ちについて、歴史を遡って確認したいと思います。</p> <p>現在の小平の地に人が住むようになったのは、近世以降と言われており、古代から中世には人の生活の痕跡はほとんど見られません。しかし、東山道武蔵路、鎌倉街道などの古道には、人の往来があったと記録されています。近世になり、青梅街道の整備、玉川上水の開削により、交通と水が確保されたことから小川村などの開拓が進みました。その頃、新田開発も進み、F新田、小川新田などのエリアもできてきました。この当時のことについて、9ページをご覧ください。これは、現在の小川町近辺の絵図です。上の青い線が野火止用水、下の青い線が玉川上水、真ん中の線が青梅街道です。この青</p>

梅街道を中心として南北に短冊状の地割がされていることがわかります。また、青梅街道の南北には用水路が流れ、そこに沿って家が建っていることもわかります。このあたりには、このような特徴的な地割が見受けられ、8ページの土地利用現況図を見てもわかるとおり、現在でもこの特徴的な地割が残っています。

近代から現在になりますと、鉄道が開通し、多くの大学が小平市に移転しました。また、それぞれの駅周辺の核がネットワークで結ばれるまちづくりとして、虹の七駅構想に基づく多核連環都市づくりが謳われるようになり、これが現在の七駅の生活圏域を中心とした都市構造の考え方の基になっていると考えられます。

続いて、2ページの左側をご覧ください。地帯構成ですが、鉄道駅を中心としたエリアは、現行都市計画マスタープランの地域別構想で、小川駅周辺、花小金井駅周辺、小平駅周辺、鷹の台駅周辺、一橋学園駅周辺、新小平駅・青梅街道駅周辺、東大和市駅周辺として設定されているものです。次の旧村・新田開発を中心とするエリアは、右の図にあるもので、このようなエリアも考えられるという意味で掲載しています。

続いて、都市軸として、現在、都市の構造上の骨格としている道路は、下の都市構造図の茶色の線ですが、東西では、新五日市街道線（小平3・3・3号線）、新青梅街道線（小平3・4・4号線）、南北では、新小金井街道（小平3・4・7号線）、府中所沢線（小平3・2・8号線）、国立大和線（小平3・4・23号線）がございいます。その他の主要な道路としましては、青梅街道や小金井街道がございいます。緑のネットワークとしては、小平グリーンロードがあります。生活拠点としましては、先ほどの地域別構想と重なりますが、鉄道駅周辺を設定しております。産業拠点としましては、ブリヂストンやルネサスエレクトロニクスなどがございいます。

続いて、3ページをご覧ください。今ご説明いたしました小平市の都市構造を踏まえまして、今後の検討にあたり深めたいテーマについてご議論いただきたいと思ひます。

3ページは、前回の見直し検討委員会でもお示したしたものです。国や東京都、市の計画と時代背景による社会潮流、それを受けた小平市都市計画マスタープラン見直しの視点、市民の意識として市民アンケート調査結果やまちづくりカフェの意見を基に、まちづくりの重点項目について、前回ご議論いただきました。今回は、前回のご議論の中で、特に重要であるという意見が多かった、将来の都市構造について、小平市における生活像についての2つのテーマを、今後の検討にあたり深めたいテーマとして、議論を深めいただき、今後のまちづくりの重点方針や部門別整備方針につなげていきたいと考えております。

続いて、4ページをご覧ください。前回までのご議論や市民意見などをも

とに考えられるまちづくりの課題を、「小平市の今後のまちづくりの主な課題」としてまとめました。9つのテーマに分け、さらにそれぞれを「新しい課題」と「継続課題」に分類しています。社会潮流に合わせた視点、見直しをする視点は「新しい課題」、強化・継続する視点は「継続課題」としています。

「1 人口減少、超高齢社会の対応」では、全て新しい課題として、生活拠点やネットワークを考えた「コンパクト・プラス・ネットワーク」によるまちづくりを進めていくことが重要である。都市構造、土地利用の誘導、住環境の整備を考える必要がある。まちづくりの観点から、超高齢社会に対応した健康増進の対策が必要である。既存ストックの活用と適切な維持管理・更新がされた持続可能なまちづくりをする必要がある。ライフスタイル（生活像）を描けるような、まちの将来像を示す必要があるという課題がございます。

「2 災害対策と安全・安心な暮らしの確保」では、新しい課題として、災害に強い都市構造の構築は、日常的なまちづくりを進めていく中で防災の視点を常に考えて、計画的にまちづくりに取り組む必要があるなどの課題があります。継続課題としては、分流地区における浸水被害対策、雨水流出抑制対策が必要である。地域コミュニティの形成・維持などの課題がございます。

「3 道路・交通ネットワークの充実」では、新しい課題として、第四次優先整備路線による都市計画道路の整備、地域特性にあった交通システムの検討。継続課題として、歩行者・自転車の利便性、小平グリーンロードを中心としたネットワークの形成などの課題がございます。

「4 水と緑の保全・創出と環境との共生」では、新しい課題として、風致地区の見直しの検討、環境と共生した低炭素都市づくりへの対応。継続課題として、小平市の歴史的な地域資源の保全・活用。生産緑地地区の指定及び農地の保全などの課題がございます。

「5 良好な住環境の維持・向上」では、新しい課題として、各駅を中心としたコンパクトなまちづくり。市民の日常の生活像を踏まえた都市機能の配置などの課題がございます。継続課題として、ユニバーサルデザインの視点、土地区画整理事業、地区計画などによる地域の特性を大切にしたまちづくりなどの課題がございます。

「6 まちのにぎわいや市民が交流する場づくり」では、新しい課題として、身近なところに活動・交流できる場づくり。継続課題として、駅前ににぎわいや活気の創出と各駅の役割の検討。駅周辺整備による、さらなるにぎわいや良好な市街地の形成などの課題がございます。

「7 小平らしい個性を活かしたまちづくり」では、継続課題として、小平市らしい資源を活かしたまちづくり。街並みの魅力を高めるための個々の

	<p>取組の必要性などの課題がございます。</p> <p>「8 他の領域（計画）や近隣地域と連携した総合的なまちづくり」では、新しい課題として、環境・エネルギーや健康・福祉、施設マネジメント等、様々な領域（計画）と連携したマスタープラン策定。都や近隣自治体の計画との整合などの課題がございます。</p> <p>最後に、「9 市民主体のまちづくりの充実」では、継続課題として、市民主体のまちづくり。まちづくりの担い手の育成などの課題がございます。</p> <p>これらの課題を踏まえまして、この後に「今後の検討にあたり深めたいテーマ」についてご議論いただきますが、その前にこの課題について、不足している点、とらえ方として問題のある点、不明な点などがございましたら、ご意見をお願いします。</p> <p>説明は以上となります。</p>
<p>委員長</p>	<p>今の説明について、ご意見をいただきたいと思います。課題についても、それで良いかどうかを検討していただきたいと思います。</p> <p>短冊状のまちは小平らしい風景であり、意味があるものだと理解できる一方で、更新されて壊れてしまい、新しい形になっていくかもしれません。</p> <p>環境やエネルギーの話、福祉系施設をどのように配置するか等、周辺の計画やソフトの動きをかなり意識して20年後を考えながら計画を作っていくことが大事ではないかと思います。</p>
<p>C委員</p>	<p>◆ 市民が交流する場づくりについて</p> <p>6番目の「まちのにぎわいや市民が交流する場づくり」の項目の中で、「身近なところに活動・交流の場をつくる必要がある」と書かれていますが、その前段が「一人世帯の高齢者の増加が予想されるため」となっています。しかし、今後は子育て世代の応援や、障害を持たれている方や子ども同士など様々な世代の方が交流できるような場をつくるのが大切だと思います。そういうものが広がり重なっていくことによって、2番で言われている「地域コミュニティの形成・維持」につながるのではないかと思います。</p> <p>したがって、高齢者に限定せずに、もう少し広げて「皆さんに優しい」というメッセージを入れていただけると良いのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>確かに、そういうつもりで書いているのではないと思いますが、そのように読めるかもしれません。そうではなくて、子育て世代なら子育てサークルなど、いろいろな人が身近で交流することが必要であり、そういう場のある所が、皆が住みたいと思う所になるわけです。この表現ではそれが想像できないので、もう少し工夫のある表現にした方が良いかもしれません。</p>

G委員	<p>◆ 「コンパクト」の意味について</p> <p>同様に表現の問題ですが、「コンパクト」という言葉がいくつか出ています。前の委員会でも「コンパクト」という言葉については意見が出ていましたが、使い方に気をつけなければ誤解を招く可能性があるので、事務局の方で整理していただいた方が良いと思います。</p> <p>例えば「六本木ヒルズ」のディベロッパーは、あれを「コンパクトシティ」と称していますが、皆さんが同様のイメージで「コンパクト」という言葉を使っているとは思えません。良好な住環境の維持向上という意味で「コンパクトなまちづくり」と言っているのか、あるいは、都市機能が集約したまちづくりを進めるという意味なのか、それがよく分かりません。</p> <p>私は都市機能を集約化するというイメージではないかと思っています。「コンパクト」という言葉はいろいろなところで使われていて、それぞれの持つイメージが違うと思われるので、気をつけなければ違う意味に理解されてしまうかもしれません。その点が気になりました。</p>
委員長	<p>私も「コンパクト・プラス・ネットワーク」という表現が何を指しているのかと考えていました。聞いた人がそれぞれ違うものをイメージするような気がするので、言葉を使う場合は、まずそれが何を意味するのかを決めなければなりません。そうしなければ、言葉が一人歩きしてしまっ、皆がそれぞれ違うことを思い描いてしまうという問題が出てしまいます。</p> <p>ただ「」が付いているので、何か意味があって中に定義されていることではないかと思っていましたが、どうなのでしょう。</p>
事務局	<p>国土交通省でよく使われている言葉なので書き込んだものです。</p>
委員長	<p>小平市で考える時にどのようなイメージで使うかということを少し議論して、イメージを共有しなければ、そのまま使うのは誤解を受けると思います。</p> <p>課題についてはこれで決まったわけではないので、お気づきの点があればまた意見を出していただくということで、次に進みたいと思います。</p>
委員長	<p>(2) 今後の検討にあたり深めたいテーマについて</p> <p>● 将来の都市構造について</p> <p>それでは、続いて資料の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3の5ページをご覧ください。今後の検討にあたり深めたいテーマの一つ目として、将来の都市構造についてです。鉄道やバスの公共交通のネットワークを軸に市内の各拠点を結びつつ、拠点においては、暮らしの範囲を意</p>

識した生活圏の考え方を設定しながらふさわしい機能の集積を図り、利便性の高いコンパクトな都市構造をめざす必要があります。小平市では、これまで小平市第三次長期総合計画により、生活圏の中心である市内7つの駅周辺を中心に、商業・業務機能の強化、文化機能の整備、公共交通機能の整備を進めてきました。今後もその基本的な考え方は継続しながら、7つの生活拠点等を等しく捉えるのではなく、その役割に応じてバランスよく機能を補完しあい、より利便性の高いコンパクトなまちづくりをめざします。そのためには、どのような駅周辺ごとのまちづくりが必要かを考えます。考え方のポイントとして、駅周辺の状況をまちづくりカフェの意見を参考にまとめました。小川駅周辺では、企業、病院が多い。福祉施設が多い。道が狭い。再開発事業が進行中。花小金井駅周辺では、商業機能等が集積している。魅力的で羨ましい。小平駅周辺では、公共施設がある。「小平」を冠しているのに名前負け。店がない。鷹の台駅周辺では、学生が多いが、集う場がなく、学生の街とまでは言えない。一橋学園駅周辺では、花小金井を地味にしたイメージ。市民の満足度はある。新小平駅・青梅街道駅周辺では、市役所、JA、病院等あるが他には何もないなどの意見がございました。このようなご意見なども参考に、駅周辺ごとのまちづくりの方向性をどのようにすべきか検討します。検討にあたっては、参考として5ページの右側をご覧ください。上段は、小平市第三次長期総合計画の抜粋です。中段は、鉄道駅・バス停の勢圏からみる小平市ということで、主に黄色に塗られた鉄道駅勢圏800mと青色に塗られたバス勢圏300mの状況を示しています。この図を見ると、充足されているように見受けられますが、市民の声としましては、鉄道やバス路線は、全体的には公共交通網が充足しているように見受けられるが、「交通の便が悪い」と感じている市民が多い。駅周辺には、医療・福祉施設、公共施設等は集積しているが、市民の満足度は高くない。駅周辺では、商店街があるところが多いが、買い物の便がよくないと感じている市民は多い。という意見があります。また、市民アンケート調査では、小平市の望ましいまちの姿について、約4割が「医療、社会福祉、教育文化施設などの機能が生活圏に集約されたコンパクトなまち」が小平市の望ましいまちの姿であると回答しています。小平市全体のまちづくりの重要度では、約7割の市民が「医療・福祉施設・商店などが集まった、身近な生活拠点の形成」を重要と回答しています。次に7ページをご覧ください。一番上の図は、人口分布を表しております。喜平町三丁目、小川東町二丁目、小川東町、学園西町二丁目、上水本町五丁目、美園町一丁目、鈴木町1丁目付近の人口密度が高い傾向にあります。真ん中の地図は人口増減を表しています。平成17年から平成22年における人口増の地区は、花小金井六・七丁目、花小金井南町二丁目、鈴木町二丁目、学園東町、小川東町、小川西町、津田町、たかの台、栄町一・三丁目、上水新町一・二・三丁目、中島町などに見られます。

	<p>下の地図は、高齢化率を表しています。高齢化率30%を超える地区は、美園町三丁目、小川東町二・四丁目、喜平町三丁目に見られます。また、最後のページになりますが、小平市の都市構造図の周りに、近隣自治体の都市構造図を合わせた図を掲載しておりますので、併せてご参考ください。</p> <p>説明は以上となります。</p>
<p>委員長</p>	<p>7つの駅の周辺を中心にするということですが、以前にも虹の7駅構想があったということで、第三次総合計画でもそのような各駅を中心とした生活圏の形成が謳われています。今後20年を考える中で、この7つの駅をどのように考えていくのか、駅周辺ごとのまちづくりを考えるのか、あるいは7つの駅の位置づけはどうかということについて、まちづくりカフェでの意見も出されていますが、市民としてはまちづくりカフェで出された意見には同意されるのでしょうか。</p>
<p>G委員</p>	<p>◆ 人口分布について</p> <p>P7の人口分布の判例を教えてください。</p>
<p>事務局</p>	<p>赤が201人以上/ha、オレンジが151～200人/ha、黄色が101～150人/ha、薄緑が51～100人/ha、緑が50人以下/haです。</p>
<p>E委員</p>	<p>◆ 20年後の人口推計とまちづくりの方向について</p> <p>20年後を考えるということですが、これから若い世代を呼び込むような都市構造のまちづくりをするのか、あるいは、今住んでいる方が長く住みやすいまちづくりを20年かけて目指して、住んでいる方たちが住みやすければ、新しい人たちがまた来るだろうという考え方が軸になるのか、それによって考え方が変わると思います。その扱いは気にせずに進めて良いのか、それを踏まえて20年後を考えるのか、それについてはどうなのでしょう。</p>
<p>委員長</p>	<p>都市計画マスタープランは20年後の姿を決めるので「20年後はこのような小平になる」というものを皆で議論して決めて、今からそれに向けて一つずつ取り組んでいくこととなります。</p> <p>したがって、20年後の小平市のために人を呼び込みたいということであれば、今から人を呼び込むための政策を立てて人を増やしていくことを考えるのか、あるいはそこまで頑張るのは無理なので、適正な人口に向けて進めていくのかということが考えられます。適正人口は出ているのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在の推計はありますが、国の「まち・ひと・しごと創生」を受けて、新しく人口ビジョンを今年から策定し始めたところです。それに合わせて市の</p>

	<p>目指すところが夏頃までに示されると思います。それをベースにするので、待っている部分はあります。</p>
委員長	<p>皆の気持ちとして「どこを目指すか」というものが需要ですし、都市計画マスタープランでは人口フレームがある程度決まっているものとして、それを前提にどのようにまちづくりを進めていくかということになります。</p>
E委員	<p>高齢者が住みやすいまちを目指すのか、若者が興味を持つようなところも入れていくのかによって駅周辺についての議論が変わると思うので、議論の前提としてアドバイスをいただければと思いましたが、なかなか難しいようです。</p>
委員長	<p>ただ、日本全体の人口推移を見ると、小平市だけが飛躍的に人口が増えることにはならないと推測されます。したがって、今の人口がもう少し増えると推計されたとして、それが横這いになるか、減っていくかはこれからのまちづくりの進め方次第ですし、これからの方向性によって規定されると思います。いずれにしても、飛躍的に増えるとは考えにくいというのが現実です。</p>
E委員	<p>その辺りの要素も考えなければならぬので確認したかったわけですが、雰囲気は分かりました。</p>
事務局	<p>大きな流れとしては、放っておくとやがて人口は減少の方向に向かい、さらに加速する恐れがあります。市としてはその方向は望ましくないので、どこまで維持できるかということを考えなければなりません。そうすると、今住んでいる人たちだけで維持していくのは無理なので、新しい世代を呼び込むことがまちづくりの中で求められていくと思います。場合によっては、都市間競争のような形になる恐れはあります。</p>
委員長	<p>人口規模がどのくらいになるかによって、ここでの議論の進め方がいろいろと違うかもしれませんが、それについてはまだ詳細が出ていないということです。</p>
B委員	<p>◆ 人口減少と各拠点の現状について</p> <p>人口が減少すると空き家が増えますが、小平市は地域によって空き家問題が顕著になっているところがあるのでしょうか。空き家が増えると、店舗もなくなって地域が廃れてしまい、都市計画的に後退せざるを得なくなると思います。それに対しては、そういう地域を特定して素晴らしい小平の自然の</p>

	<p>環境に戻すという方法もあると思います。</p> <p>先ほど話題に出た「コンパクト」のイメージについては、皆が住みやすいところに自然に移っていくということ、つまり、今まで広く均一に人々が住んでいたのに対して、人口が減っていく中ではメリハリをつけて機能を集約して住みやすく、高齢者にも優しいまちにするということではないかと思います。どこをどうするかという話をするのは難しい面がありますが、それを考えなければ本当の問題解決には結びつかないと思います。先ほどの「コンパクト」については、そのような考え方もあるのではないかと思います。</p> <p>空き家問題はどうかのでしょうか。</p>
E委員	<p>地域の特定という点では、花小金井駅周辺は魅力的と書かれていますし、小川周辺は農地が多いです。空き家については、新しい建物が建つと皆が古い建物から転居してしまうので、古い建物は回転が悪くなって壊すことになります。それから、小平市は短冊形で道路側にあった自宅を壊して奥に移し、道路側がロードサイドになっています。奥に行くと畑が短冊型で残っていますが、道路からは見えなくなっています。</p>
委員長	<p>空き家率はそこそこだと思いますが、昔、農家が建てたようなアパートは空き家になっているのではないかと思います。</p>
E委員	<p>そういうものはあります。それをどうするかというところが課題になっています。</p>
委員長	<p>小平市では、現在のところ、世の中で言われているほど、空き家の問題は深刻な状況ではないのではないかと思います。</p> <p>オーナーが建ててからかなり経っていても、行政が対策を立てなければならぬほど困るような状況ではなくてそのままになっているところがあります。それが今後は、問題になるかもしれません。</p> <p>そういうところを小平の良い風景にするために、できれば古い住宅を含めて緑の環境にしてもらえると良いと思うので、そういうことを考えながら誘導していく方法もあるのではないかと思います。そのためにも、土地利用や農地保全について、合わせて話を伺いたいと思います。</p>
A委員	<p>人口分布で花小金井はかなり人口が増えていますが、従来畑だったところにもマンションが建って、人口が増えているという傾向があると思います。</p> <p>そういう意味では、小川の方もブリヂストン周辺はそれほど農地があるようなイメージがありません。人口分布図の緑の部分はブリヂストンですが、ブリヂストン自体は低迷しているようなイメージなのに、そこで人が増えて</p>

	<p>いるのはどういうことでしょうか。</p>
事務局	<p>データとしては平成17～22年の5年間で100強程度の数字なので、5年前に少なかったところが入れ替え等で少し増えたために増加と表示されているようです。大きなトレンドを示しているものとは違うかもしれません。</p>
A委員	<p>花小金井はマンションが増えて人口が増えているようですが、そういう意味では、駅の拠点を考える中では人口が一番顕著に出てくるのではないかと思います。</p>
E委員	<p>農地が住宅地になって人が住み、人口が増えるというデータも出ます。</p>
委員長	<p>今人口が増えているところは、駅周辺も魅力的になっていて、そうでないところは寂しいようです。</p>
H委員	<p>◆ 拠点ごとのまちづくりの方向性について</p> <p>私は一橋学園駅前に住んでいますが、マンションが建つ等、人口が増えているようです。ただ、一方で商業地域をマンションにしてしまう中で、1階部分にテナントや病院等、市民の利益になるような施設が入るわけでもなく、全部を住居にしてしまうので、人口は増えるけれども、商店街は歯抜け状態になっています。そのため、商店街の残った店舗が個々に頑張っても、連続した商店街にならないので利用者も利用し辛くなる等のデメリットが出ています。</p> <p>小平駅周辺はバリアフリーも進んでいますし、「ルネこだいら」もあるので歩道が広くて良いと思うのですが、一日中人が往来して、高齢の方も子どももたくさんいるのに対して、商店街が潰れてしまっています。</p> <p>そのように矛盾を抱えているところがありますが、人が集まる駅周辺の商業地域に対して、元々、土地は個人のものであり、住民が要望しても店舗はできないので、行政の方で、少なくとも1階部分は商業部分を守るサポート等を軸に入れたまちづくりをしていかなければならないと思います。このまま建て替えが進んでしまうと、いくら20年後のまちづくりを目指していても、一度建て替えられると50年くらいは新たな建て替えができなくなります。したがって、法律との兼ね合いもありますが、商業地域の権利を守って、高層建築を建てて使うのであれば、きちんと商業を入れる、もしも入れないなら逆に低層にするくらいのことをしてほしいと思います。</p> <p>ディベロッパーに聞いたところでは、テナントを入れると収入が一定ではないので、ローンが組めず、ディベロッパーが建てる時の費用が上手く回らないようです。そこで、市が市民と一体になってその点をサポートできるシ</p>

	<p>システムができれば良いと思います。皆さんのお知恵があると上手くまとまるのではないのでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>手法としては、いろいろな取組をしようとしているところもありますし、取組む必要性もあるかもしれません。けれども、現在、ここで議論すべきかどうかという問題があります。地域別構想の段階で考えたり、地元で先行して検討していく問題のように思います。</p>
<p>F 委員</p>	<p>自然発生しかありません。花小金井などは土地の兼ね合いもあり、マンションが1,400室ほど増えるに伴い、人口が1～2万人増えると予測されるので、商業に強い地域だと言えます。</p> <p>そう考えますと、プランだからこそできそうな話として、同じ小平市の中でも商業エリアや農業エリア、福祉エリア、文教エリアというように、大きなビジョンを立てて少しずつ進めば良いと思います。7つの駅も「虹」に例えるなら同じ色ではなく、違う色の連携のあるまちづくりのプランができると良いのではないのでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>「7つの拠点」と生活圏を考えた時に、その7つは場所によって規模も内容も違うと思いますが、それが今までのマスタープランにはきちんと書かれていませんでした。例えば一橋学園駅であれば一橋学園なりの拠点のあり方がある等、それぞれ違うはずですが、皆も違うと思っているけれども、この中では「7つの拠点」の内容についてはあまり触れていません。</p> <p>したがって、「その拠点なりのあり方がある」ということをきちんと書かなければ、それぞれが本来とは違うものになってしまう可能性があります。今までは「7つの拠点」と言っているだけで、その内容を明確にしていなかったもので、それぞれがどういう拠点なのかということを考える時期に来ているのではないかと思います。</p>
<p>A 委員</p>	<p>もう少し具体的に拠点の顔を出したら良いのではないのでしょうか。例えば、一橋学園駅周辺については「市民の満足度はある」と書かれていますが、全く満足しているのでしょうか。確かに「ずっと住み続けたいまち」の一つに小平を挙げているわけですから、今の状態で不便はないわけです。あそこに商業を集積しようとは誰も思っていない。一橋学園駅周辺に住む人たちは大きな買い物をするなら国分寺で十分だと思っていると思います。近くに日常生活に必要なものを買えるところや、ちょっと飲みに行ける店があれば良いという程度です。</p> <p>逆に言えば、一橋学園駅周辺はもっと商業を集約しても良いと思います。五間通りの沿道がすべて商業で埋められるというのは昔の手法なので、もっ</p>

委員長	<p>と小さな商業地域に集約して、マンションも例えば沿道は5階建てまでで、1階部分に商店を入れなくても良いようにした方が良いと思います。</p> <p>しかし、花小金井はこれから人口が増えていくので、もっと大型量販店を誘致するような形にして、東久留米市や西東京市の人たちも「新宿は遠いから」と花小金井駅周辺の商圈に取り入れるようなまちづくりをした方が良いのではないのでしょうか。</p> <p>そのように、拠点ごとにメリハリをつけて、一つ一つの顔を出した方が20年後にどのようなまちにするかというところが見えてくると思います。</p> <p>満足度は高いと書かれています。</p>
B委員	<p>駅周辺ごとのまちづくりの方向性を検討すると書かれています。ここで検討するのであれば各拠点の地図が必要です。各拠点の建物の用途が分かるような色塗りされた地図で、ブロックがどのようになっているか、道幅はどのくらいあるか等が分かるものがあれば状況が分かると思います。私は小平市に住んでいないので、資料がなければイメージできません。ただ、他のいろいろな自治体の情報がありますので、それを小平に投影すれば、新たな知恵が出てくる可能性があります。したがって、次回以降に、各拠点の方向性を検討するのであれば、そのような資料が必要です。</p>
委員長	<p>土地利用が分かる資料があれば、客観的に見た各拠点の方向性が見えてくると思いますが、そこまで検討するかどうかとも考えなければなりません。</p> <p>本日の議論としては、都市構造の中で「7つの駅」にそれぞれの性格づけを考えるという意見が出たということで、個々については地域別構想を考える時にそれぞれ考えることになると思います。したがって、本日の全体構想の中では「7つの駅」が並列ではなく、今後はそれぞれの機能や位置づけを考えていくことが確認できたということだと思います。</p> <p>ただ、「買い物は国分寺でいい」と言われてしまうと、地元の商業としては困ると思います。</p>
F委員	<p>国分寺も変わっていくと思います。</p>
委員長	<p>確かに、場所によって買うものが違うので、使い分けはあるかもしれませんが、生活圏を考えると、本来は地元で買い物をしていただくかなければならないと思います。</p>
A委員	<p>近隣との都市計画と関係します。例えば東久留米市や西東京市の人たちを呼び込むような魅力ある施設を花小金井につくることになれば良いと思</p>

	<p>います。</p>
F 委員	<p>例えば、花小金井は商業に力を入れるとか、小川駅周辺は福祉に力を入れるとか、そういうことを書けるのでしょうか。</p>
A 委員	<p>メリハリをつけて書いた方が良くないのでしょうか。</p>
F 委員	<p>ここにそれが出ているのは、上で叩かれて横並びに出したからではないのでしょうか。メリハリを出せるのであれば議論しますし、最初から出せないのであれば仕方ありません。当局はどこまで考えているのでしょうか。</p>
事務局	<p>開発は開発条例に基づいて行いますが、開発条例そのものは都市計画マスタープランの方向性に基づいてまちづくりをしていくこととなります。強制はできませんが、マスタープランに示すことによって「市としてはこの周辺をこのようにしたい」という意向を事業者理解してもらうための一助になるところがあります。</p> <p>もう一つは、全部の駅に同じように同じ機能を配置しても良いのかということですが、もちろん最低限必要なものはあると思いますが、それ以外の他にプラスするものをすべて揃えて同じ色合いにしても仕方がないと思います。</p> <p>例えば、鷹の台駅は傍に玉川上水が走っていますので、高層ビルや大規模商業を持ってきても広さ的にも難しいし、駅周辺の色にも合わないと思います。それは花小金井駅とは違う周辺環境があるからであり、それを活かすことが大事です。</p> <p>一橋学園駅については悩ましいところがあり、元々は住宅地として整備されたところに商業が張り付いて日常生活を営んできたという状況です。確かに商店が多いのですが、電車の駅一つの距離にある国分寺で大規模開発が行われているので、国分寺に負けないような商業地にしようとする、ビルがたくさん建っている現状では大規模再開発は難しいと言えます。そうすると、やはり役割分担になります。多くの住宅があるということは消費者がすぐ傍にすることを意味するので、それらの人々がわざわざ電車に乗らなくても日常的に駅周辺に買い物に行くことを考えると、どういうものが揃っていると便利なのか、そこに住んで良かったと思えるかということが見えてくると思います。</p> <p>もちろん夢を描くのは良いのですが、絶対に無理と思われるものを入れてしまうと実現が厳しくなってしまうので、まず、それぞれの特色を活かしつつ、市内に住まれている方々に「ここはこうになってほしい」というものを出してもらうことが大事です。したがって、できるかどうかは別として、まずは本当の気持ちを述べていただくと有難いと思います。</p>

G委員	<p>◆ 中心核の必要性について</p> <p>まちづくりカフェの意見や、アンケートを読みますと、多くの方が「小平には核がない、中心がない」と言われています。私はそれぞれに個性を持った駅があって良いと思っていて、核を持つ必要はないと思っていますが、やはり、核を求める意見が多いので、それに対して説明をしておかなければ、今後どうなるのかと心配になります。</p>
B委員	<p>私は東久留米市の住民ですが、東久留米市には久留米西団地と滝山団地という大きな団地があり、ここの人たちは買い物をするのにバスの便の良い花小金井に行って、東久留米駅の方には行きません。この点も花小金井駅周辺が発展した理由の一つだと思います。</p> <p>一方で、花小金井駅は小平市の端にあるので、小平市民全員が買い物に行くには不便で、一橋学園駅周辺の方は国分寺の方に引っ張られてしまいます。そのような理由から、人々が集まって核となる場所ができにくいのだと思います。つまり、小平市は周辺地域に有力なところが多いので、それらに影響されているわけです。</p>
委員長	<p>ただ、市民としては核がほしいわけですね。</p>
G委員	<p>そういう意見が多いようですが、20年住んでいても、私にはそれがよく分かりません。</p>
委員長	<p>「小平と言えば何か」というアイデンティティのようなものを自分たちの中に持てないからなのではないでしょうか。「小平と言えばこれ」と言えるものがあれば良いのかもしれない。</p>
G委員	<p>私は、元々このまちは核を持つほどのまちではないと思っています。20年住んでみて、まち全体は団地のようなイメージですし、住んで良いまちだと思います。団地の集会所のように拠点ごとに施設があって、生活するには良いと思っているので、敢えて大きな中心核が必要なのか、疑問に思います。B委員が言われたように、非日常的な買い物は他の駅に行けば良いわけです。</p>
委員長	<p>そういう目に見えるものなのか、市民としてのアイデンティティとなる核の話なのか、そのどちらもないので「核がほしい」という意見が出ているのではないかと思います。それぞれが求める核とは何かということです。</p>

E委員	<p>アンケートの中で「親戚が来た時に案内する場所がない」という意見もありました。そのような外から来た人を連れて行くようなところも核として含めているかもしれません。良い意味でも悪い意味でも平らなのが小平のメリットでもあり、デメリットでもあるのではないのでしょうか。そういう意味で、7つの駅に特色が出ると、それが1つの核になるかもしれません。</p>
A委員	<p>逆に、小平駅には小平霊園があるので、都内の人には「小平は小平霊園のある所」と言われます。そこで、例えば小平駅周辺に福祉機能を集めて、駅から歩ける位置に老人ホームや高齢者に対する施設を設けて、「霊園もあるけれど、福祉のまちづくりになっている」というのも小平駅の1つのあり方として売りになるのではないかと思います。そういうメリハリをつけても良いのではないのでしょうか。</p> <p>それで、事務局にお願いしたいのですが、次回までに7つの駅の1日の乗降客数を教えてください。また、彼岸には小平市の人はもちろん他地域からも人が来ていると思いますので、彼岸の時の小平駅の乗降客数も参考にしたいと思います。</p>
E委員	<p>道路も大変な渋滞になります。</p>
F委員	<p>今は小平駅の彼岸の混み方も減っています。乗降客数は、花小金井駅が4万人くらいで、小平駅が4万人弱くらい、一橋学園駅が2万人前後、青梅街道が3,000～4,000人くらいようです。</p>
G委員	<p>◆ 昼間人口について</p> <p>夜間人口は18万人ですが、昼間人口はどのくらいでしょうか。昼夜間の差で出る人が多いのか、入ってくる人が多いのか、それによって都市の性格が違ってくると思いますので、次回に教えてください。</p>
委員長	<p>これから高齢化が進むと、高齢者は通勤しないので昼間人口が増えてくると思います。</p>
G委員	<p>工場があるので、通勤者が多いのではないかと思うのですが、このまちが自立しているのか、依存しているのか、そこがよく分かりません。</p>
副委員長	<p>◆ 7つの拠点の考え方について</p> <p>現行のマスタープランでも地域別構想があり、見直し案でも書き換えられますが、今は7つの駅が拠点という位置づけなので、7つの駅をそれぞれ拠点として市全域を7つのブロックに分けて考えるということでしょうか。駅周</p>

<p>委員長</p>	<p>辺のある程度のエリアを想定して拠点性を持たせるという発想があると思いますが、前提は、駅を中心として市全域が7つにブロック化されるというイメージで良いわけですね。</p> <p>過去はそのようになっていましたが、それで良いかどうかというところも気になっている点です。</p>
<p>副委員長</p>	<p>拠点性については、現行の案に基づいて確認するしかありませんが、それぞれのくらいの人口がそこに張り付いているかということと、その人口が今どのように推移しつつあるかということも重要だと思います。それについてはあまり話が出ませんでした。人口の推移と人口構造の変化の両方を、夏に出ると言われた新しい人口推計と併せて確認したいと思います。</p> <p>それで、7つの駅については、花小金井のように集積が生むところもありますが、市境区域はどこも同じような傾向があって、隣の市に人が流れていくことは自ずとあり得ます。そのようなことを全部含めて、違う個性が出てくるのはごく自然なことだと思いますし、それで良いと思います。</p> <p>ただ、この議論はP5にあるように、鉄道・バス等の公共交通ネットワークをどの程度充実させるかということにかかると思います。市民の声は正直で、いろいろと整っているようでありながら「実は」というコメントが多いようです。「外見はこうだけれども、実感としてはこうだ」という声が非常に多いのは、ニーズに応えるような生活サポート関連のサービスがそこで得られないとか、そこに行くまでに上手くアクセスできない等の問題が滲み出ているからだと感じます。</p> <p>したがって、もう少し各拠点と称するエリアの人口や現状に関する情報が必要ですが、ある程度まとめたところで、その違いを違いとして活かすようなネットワーク性の強化をここで一緒に謳えば、いろいろな方の理解を得られるのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ただ、拠点同士を結び付けることが難しそうな気がするので、外との関係も考えるという話になるのではないかと思います。中でつながるよりも、外との関係の中に小平はあるように感じます。</p>
<p>F 委員</p>	<p>◆ 公共交通の重要性について</p> <p>交通の問題が一番重要です。都営バスが4月から花小金井駅始発になりましたが、元々は阿佐ヶ谷～青梅という長距離路線で、それが乗降客の関係もあって花小金井駅始発になったようです。それで都営バスには税金が出されていますが、小平市は面積の案分が多いので負担率が大きくなって支払額が増えています。</p>

	<p>そう考えますと、1時間に2～3本ですが、青梅街道は大動脈なので、この往来がもう少し増えると7つの駅が連携できると思います。そこで、個人的には公共交通機関に要望して、都営バスのスタンプラリーキャンペーンのようなものを行ってはどうかと思っています。話をしたら協力してくれそうなどころがありますし、まちづくりには直接関係はありませんが、ここは基幹部分になると思います。そもそも小平市には、鉄道がない時代は馬や馬車や人が歩く街道筋の文化があったので、このまちに関しては農地が残っている形態も歴史ある青梅街道ありきだと思います。</p> <p>したがって、もう一度このまちを見直す上ではまちの柱として、形成する何かとして、本当は7つの駅を循環できるバスがあると便利だと思います。しかし、なかなかそれはできないということで、今はコミュニティバス等でブロックごとに小さなサークルを4～5つつくるような動きを展開しているようですので、そのためにも青梅街道を活かせないかと思っています。</p>
委員長	<p>そこをバスが走っても利用客が少ないのではないのでしょうか。</p>
A委員	<p>それは負のスパイラルですね。いたちごっこです。昭和病院に行きたくて青梅街道のところでバスを待っていても、1時間に1～2本しかなければ困ります。</p>
F委員	<p>せめて1時間に2本なければどうしようもありません。</p>
委員長	<p>そういうことを市民にも理解してもらって「乗らなければならない」ともつと言わなければならないと思います。</p>
F委員	<p>花小金井駅からのバス路線が残ったので、これは財産になると思います。本当は自前で走らせなければならないくらいのインフラです。</p>
委員長	<p>しかし、市民が利用しなければそれも生きてこないわけですから、そことの関係になります。それが大事であれば、それをどのように活かしていくかということも市民も考えなければなりません。利用しなくても、税金の形で負担しなければならないので、どのくらい負担しているかを知って「だから利用しよう」ということを言わなければならないと思います。</p>
F委員	<p>上手く都営バスを使うキャンペーンを展開するのも大事ではないかと思います。</p>
委員長	<p>ネットワークでつなぐニーズはあるのでしょうか。今、7つの拠点をつな</p>

E委員	<p>ぐような人の動きがあるのでしょうか。</p> <p>交通の便が良くないと言っている人はどういう点を言っているのでしょうか。自宅までのアクセスという細かい点を言っているのか、市内の大きな移動を言っているのか、それによっても考え方が変わると思います。</p>
委員長	<p>交通センサスを見ると市内で動く人が増えていますし、これからは市内の動きが増えていくはずで。そういう中で交通網ができていないことが不便なのか、それとも通勤の便が悪いのか、買い物が不便なのか、分かりません。そういう意味では、都市計画マスタープランを作る時に小平の地図だけを見ていると、小平の中だけで生活するような勘違いをしてしまいますので、多くの人の生活圏は市域を出ていろいろなところに広がっていることを考えながら、もう一度7つの拠点の関係やつながりを見る必要があると思います。</p> <p>そうすると、例えば商業について、一橋学園駅周辺は国分寺とセットになるかもしれませんが、花小金井駅周辺は東久留米から来る人とセットで考えるべきかもしれないので、そこも読み解きながら7つの関係を考えていくべきではないかと、本日のご意見を伺いながら思いました。簡単に7つをつなぐ方が良いのか、あるいは、外とのつながりの中で7つがそれぞれあるという形になるのか、それはいろいろなデータを見ながら考えていくことになるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>●小平市における生活像（暮らしのイメージ）について</p> <p>それでは、次に移りたいと思います。暮らしのイメージについて説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3の6ページをご覧ください。テーマ②「小平市における生活像（暮らしのイメージ）について」です。小平市には、小平グリーンロードに代表される豊かな水とみどり、大学の集積やそれに伴う産学連携の取組など、多くの特色ある資源を抱えています。これらの特徴を活かしつつ、新たな個性や魅力を再発見し、小平らしい生活ができるまちづくりをする必要があります。そのため、小平市のまちの個性や魅力を大切に、また再発見し、これらを活かしたまちづくりによって、小平市における暮らしのイメージは何かを考えたいと思います。考え方のポイントとして、これまでのこの検討委員会やまちづくりカフェなどの様々な場面で出された、小平市のイメージに関する主な参考意見をご紹介します。お気に入りスポットとしましては、小平グリーンロード、玉川上水、野火止用水、中央公園、ふるさと村、青梅街道、喜平橋近くの桜、彫刻の森緑道、じょうすいこぼし、こもれびの足湯、</p>

	<p>農地の多い地域などがございました。また、・高低差がありません。（平地が多くて暮らしやすい、窓から見える景観がやや単調）・緑に恵まれたまち。・災害に強いまち。・東西に長くて駅が7つある（便利な反面、どこが中心かわかりにくい。駅が多いのに不便を感じる）。・大型スーパーに依存し過ぎると小平らしさがなくなる。・魅力的な飲食店が少ない。・小平市は土地が高いと感じている人も多い。・大学が多い利点を活かして、地域で学生や大学を応援する取組したい。・まちづくりでは高齢者対応が手厚い（福祉のまち）。・青梅街道を中心にした短冊状の地割や屋敷林に用水路は美しく、歴史的にも価値がある。・スローライフが似合うので「楽園」という言葉が合う。などのご意見もございました。これらを参考にしながら、めざすべき小平らしい暮らしぶりは、どのようなものか検討します。右側は、検討の参考資料です。真ん中にあるのは、観光まちづくり振興プランの概要です。前回の検討委員会で、「プチ田舎」について盛り上がったところです。</p> <p>資料の説明については、以上となります。</p>
委員長	<p>暮らし良い小平であることは誰もが評価しているところであり、20年後もそうであってほしいところです。そうした時に、それがどのような暮らしなのか、何がそこに求められているのかということも考えてご意見をいただきたいと思います。</p>
委員長	<p>◆ 「災害に強いまち」について</p> <p>「災害に強いまち」については、他のマスタープランでは必ずいろいろな問題が挙げられますが、そういうものが出ていません。水害も出ないのでしょうか。そういう意味では、ハザードマップを作ってもあまり危険なところが出てこないのでしょうか。</p>
事務局	<p>川も崖もないので、災害に強いイメージがあります。</p>
委員長	<p>イメージだけではなくて、本当に災害に強いのでしょうか。</p>
事務局	<p>強いと思います。</p>
A委員	<p>ただ逆に、川がないことは問題でもありました。小平は平坦すぎるので、雨が降ると水の行き場がなくなっていましたので、下水道が完備されるまで、例えば、五日市街道と府中街道の交差点は大雨の度に車が通れないほど冠水していました。部分的にそのような冠水箇所がかなりあったわけです。下水道が整備されてからは、それほどの冠水はないようですが、ただ川がないために、50mm/時間の雨が降ると水が溜まってしまい、流れるまでにかな</p>

事務局	<p>りの時間がかかるのではないかと思います。それは大丈夫なのでしょう。</p> <p>一時的にスコールのような雨が降ると部分的に溜まる箇所はありますが、そこまで至らなければ下水道が完備されているので、通常ではほとんど冠水することはありません。台風やスコール的な雨が降った時は若干冠水したり、たまに落ち葉等が詰まって逆流したりすることはありますが、通常時の冠水はほとんどありません。</p>
委員長	<p>そういう意味では、安全で災害に強いまち、緑に恵まれたまちと言えると思います。</p>
A委員	<p>災害に強いのであれば、インフラ面で災害に強い部分を打ち出すような形のマスタープランにするのも1つの方向だと思います。</p>
E委員	<p>災害に強いというのは打ち出しやすいと思います。防災に完全はないのですが、行政としては大丈夫でしょうか。</p>
委員長	<p>今まで、あまりそういうことを意識してこなかったということですか。</p>
E委員	<p>そういうイメージを持って住まれている人が多いのは確かです。</p>
事務局	<p>住んでいる方には「平ら」というイメージが相当にあると思います。平ら＝安全を裏付けているような印象があると思います。</p>
委員長	<p>本当はどうなのかという、正しい裏付けがあるのなら良いのですが。</p>
事務局	<p>木造密集地域もないので、火災による延焼等の危険もあまりありません。</p>
委員長	<p>イメージだけではなく、きちんと災害に強いことを発信できると良いと思います。</p> <p>魅力について、ここに書かれている以外にありませんか。</p>
E委員	<p>◆ グリーンロードの魅力について</p> <p>私は観光まちづくり振興プランの会議にも出席していますが、やはりポイントはグリーンロードです。玉川上水等、東京都との関係があって難しいことがあるかもしれませんが、あそこを皇居周辺のようにきれいで歩きやすい環境にできれば良いと思っています。整備が進んではいますが、もう少しきれいになると印象が良くなるので、グリーンロードはどうにかならぬので</p>

B 委員	<p>しょうか。</p> <p>災害時に水は大事です。玉川上水が使えるのは大きな価値があると思いますし、大きな川が流れているよりもむしろ使いやすいと思います。親水の環境づくりでアクセスできるようにしておくことも大事です。</p>
委員長	<p>◆ 「プチ田舎」のキーワードについて</p> <p>前回に出ていた「プチ田舎」というキャッチフレーズはどうでしょうか。</p>
F 委員	<p>市長が気に入って、正式に観光まちづくり振興プランで採用され、冊子に掲載されています。差別の意味ではなくて、良い意味での「田舎」です。</p>
H 委員	<p>小学校4年生の娘にそのキャッチフレーズを話したら、絶句していました。</p>
E 委員	<p>今はまだキャッチフレーズなので、全体の構想を聞いていくと、市長が言っているイメージが整備されてギャップがなくなってくるような感じがします。市長も実態と上手く整合するまでは補足をつけながら話しているような気がします。</p>
H 委員	<p>◆ グリーンロードを中心とした自然の魅力の打ち出し方について</p> <p>玉川上水を世界遺産に登録しようと言っている人がいますが、発想としてはそれだけ大事に思っているということなので、それをいろいろな動機づけにして、実現するかどうかとは別に、大事にするために皆で動く、それに付随することをいろいろと知ることができると思います。いろいろなことに直面すると思いますが、そのように皆で目指していけるものがあると、小学生から時間に余裕ができた高齢の人たちまで一緒に動けるのではないのでしょうか。それが私としては向かって行きたい今後のイメージです。</p>
F 委員	<p>現実にはできるかどうか別として、グリーンロードは21kmあるので、ハーフマラソンのコースにすることも考えられます。そういう大きな目標があると、ある意味では「小平はグリーンロードを使ってハーフマラソンができるまち」ということが核になるかもしれません。</p> <p>そして、子どもたちが集まってきた時に、一緒にゴミを拾ってもらおう等を行うことによって環境学習にもなりますし、ゆくゆくは玉川上水でつながっているまち並みの人たちが一緒に活動することも考えられると思います。50周年の時に津田塾大学でサミットが行われましたが、もう少しきちんとしたものを行えば世界遺産に向けた活動もできるかもしれません。</p>

	<p>マスタープランとは関係ないかもしれませんが、個人的には、ハーフマラソンのコースにしたいと思っています。</p>
B委員	<p>「玉川上水博物館」を作ったらどうでしょうか。大変に高い土木技術で作られているので紹介してはどうでしょうか。そういうものも核になると思います。</p>
副委員長	<p>小平には自然との近さがあります。玉川上水や野火止用水等は完全に手つかずの自然ではなくて人が手を加えたものであっても、実質的には自然の一部のような印象があります。</p> <p>今、いろいろな自治体がグリーンツーリズムという運動に取り組んでいますが、中山間地を抱える自治体がほとんどです。そういう意味では、ある種「都会型グリーンツーリズム」的な場所にもなるのではないかと思います。ここには大切に残されてきた実質的な自然の中で暮らせる毎日があります。だからこそ、住まわれている人たちも「離れたくない」という人が多いのではないかと思います。</p> <p>自然と近いという点では、眺望が素晴らしいとか、散歩して楽しいと思うと同時に、農地等の直接触れられる自然も多いようなので、そういうところをもっと大事にしながら、次のマスタープランでも強く打ち出してはどうかと思います。農家と市民との距離は近いのでしょうか。</p> <p>◆ 農地との関係について</p>
E委員	<p>この辺りの農作物は市場に出すほどの量がとれないので、基本的には個々の軒先で住民を対象に少量多品目で販売しています。</p>
副委員長	<p>オープンマーケットのような、週末に何ヶ所か決まった所で売っているようなものはないのでしょうか。</p>
E委員	<p>それぞれが軒先で売っている状況です。</p>
H委員	<p>100円入れて持っていくような形で毎日売られています。</p>
A委員	<p>青梅街道に道の駅をつくって、そこで販売されると良いと思います。</p>
E委員	<p>来年の秋には、JAの小平支店が建替えによってきれいな直売所ができる予定です。</p>
副委員長	<p>市民農園的な、市民が実際に作物を育てるような場所もあると思います</p>

	が、参加している人数や面積はどのくらいでしょうか。
事務局	面積は分かりませんが、市民農園は人気が高くて、抽選されていると聞いています。
副委員長	他市自治体に比べて、小平市は断トツにそのような自然環境が豊かだという現実があって、かつ守っていける展望があれば、それは非常に大きな魅力になると思います。
E委員	市民農園は人気が高くて順番待ちですが、市民農園にしてしまうと、その農地にはその後に税制上の問題があるので、あまり普及していません。
委員長	生産緑地は使えないのでしょうか。
E委員	生産緑地は相続の問題があるので、農家が栽培指導する体験農園が普及しています。それについては、都市農業振興基本法と東京都の特区の話が出ていますので、緩和されると市民農園は増えるのではないかと思います。そのような動きが出ていますが、まだ決まるかどうかは分かりません。
委員長	そのようなものを残しつつ、都市型農業や都市の人が農地に触れながら暮らせる小平というイメージはできるのではないのでしょうか。今から頑張っただけで残していけば、20年後にできるはずですが、それに今から取り組まなければ、いつの間にかなくなってしまったというような事態が起きるかもしれません。
E委員	住宅地になってしまうと、現状ではもう農地に戻せません。
委員長	ただ、これから上手く戻していく方法が出てくるかもしれません。少し集約して行くとか、そういう手を考えておいて、消滅しそうになったら何かの手を考えながらそれらしい風景を残していく努力は必要かもしれません。
B委員	TVのコマーシャルで有名ですが、柏の葉キャンパスでは、三井不動産がディベロッパーとして、「農地に触れながら暮らせるマンション」に取り組んでいます。
委員長	J Aで取り組んではどうでしょうか。地元でマネジメントすると、いきなり大きな利益は出ないかもしれませんが、緑地や農地の維持とセットで行えるとと思います。

E委員	<p>そのようにしていきたいのですが、いろいろなところとの関係で難しいところがあります。関係省庁が農水省だけなら窓口がはっきりしてもう少し取り組みやすいのですが、関係省庁がいろいろあって難しくなります。</p>
委員長	<p>ただ、それを都市計画マスタープランに書いておくと、それが1つの後ろ盾になると思いますので、その思いを都市計画マスタープランに書くことは必要だと思います。それを書かなければ、全く何もないことになります。したがって、もしもそのような思いがあって、そちらの方向を目指すのであれば、都市計画マスタープランに書くことはそのような手立てを考えていくきっかけになると思います。</p>
B委員	<p>都市の中で土いじりをしながら暮らすというのは、非常にイメージしやすい暮らしの姿だと思います。</p>
A委員	<p>恐らく制度も変わっていきますので、逆に「この地域を将来的に災害が起きた時にも使えるような緑地として残す」ということは必要だと思います。その部分を都市計画マスタープランで押さえておいて、例えば株式会社のシステムで運営等ができるようになれば、そこで相続問題が起きたとしても、株式会社が代替して相続者には借地料が入るようにしながら農地を残していくことも将来的にできるかもしれません。</p>
B委員	<p>J Aによるコーディネート機能ですね。</p>
A委員	<p>そうすると、都市計画マスタープランに書いておくことが農地の宅地化の足枷になるので、良いかもしれません。</p>
E委員	<p>農のあるまちづくり推進会議の方で農業公園の構想が考えられていて、これから提案されますが、そちらの方では、農地がなくなってしまう前に「小平の農業はこうだった」と言えるようなエリアを残していくという考え方で動いていますので、そういうところとのリンクも入れてもらえると、そのようなエリアに農業公園も考えられるのではないかと思います。</p>
B委員	<p>空き家を農地にして、メリハリをつけたコンパクトにするというような方法も小平らしいと思います。</p>
委員長	<p>農業や農地については、今後、情報提供をしていただければと思います。</p>

D委員	<p>◆ グリーンロードにおけるマラソンについて</p> <p>私は会社でグリーンロードを使ったマラソンについてヒアリングをしましたが、やはり「走るのに道が適していない」というコメントがありました。また「信号を考えるとできないのではないか」という意見もありました。ただ、それができることに関しては「実現できれば素晴らしい」という意見なので、走れる環境を整備してもらえれば、会社等を動かして協賛できる可能性がないわけではないと感じました。</p> <p>ただ、実際に走るメンバーからすると「練習ができないのではないか」と言われました。私自身も走りますので、グリーンロードの環境は良いと思っておりますが、自転車道路の方は走っている人がいても、玉川上水の方は走っている人を見かけません。整備については敢えて舗装が必要かどうかも含めて議論が必要だと思いますが、ウォーキングをしている人はいるので、もう一歩ではないかという気がします。</p>
委員長	<p>小平の核とか、小平らしいところというのは、そういうことを積み重ねながらつくっていくものだと思います。本日はもう時間もありませんが、少しずつ進めていければ良いと思っています。</p>
	<p>4 今後の日程について</p>
委員長	<p>それでは、今後の日程について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールにつきまして、資料1、4、5でご説明いたします。</p> <p>資料4をご覧ください。大きな変更点といたしましては、前回ご説明した際は、全体構想のパブリックコメントを11月頃に実施することとしておりましたが、来年3月から4月にかけて実施する予定に変更いたしました。そのため、今年度は全体構想について検討することができます。しかし、12月頃までには、全体構想のある程度の形ができるようスケジュールを組む予定です。全体構想の形ができましたら、地域別構想の検討に入って行く予定です。</p> <p>市民意見の収集につきましては、今年度も積極的に行います。現在決定している日程につきましては、7月11日（土）と9月26日（土）にまちづくりカフェを実施します。また、8月29日（土）には、都市計画マスタープランセミナー（仮称）としまして、委員長にご講演いただきます。今年度の市民アンケート調査は8月に発送し、1か月程度の集計期間を設けます。市民アンケート調査につきましては、資料5をご覧ください。今年度の市民アンケート調査の内容につきましては、主に本日ご議論いただいた内容に関することや、地域別構想の検討の基礎資料とするため、市民の生活行動や地域の暮ら</p>

	<p>しやすさなどについてうかがいます。アンケート項目につきまして、入れる必要があると思われる項目がございましたら、ご意見を願います。続いて、資料1をご覧ください。4の(2) 主な行事予定についてです。6月26日(金)に小平市都市計画マスタープラン全体構想特別委員会がごいます。7月11日(土)に、仲町公民館にて第4回まちづくりカフェを実施します。8月上旬に市民アンケート調査を実施します。8月29日(土)には、都市計画マスタープランセミナー(仮称)を実施します。9月上旬に、次回の見直し検討委員会を開催いたします。9月26日(土)に、中央公民館にて第5回まちづくりカフェを実施します。</p> <p>今後のスケジュールにつきましては、以上となります。</p>
<p>委員長</p>	<p>ご質問、ご意見はございませんか。このようなスケジュールになっていますので、9月、10月、12月の3回くらいは引き続きこの全体構想について皆さんに議論をしていただきながらまとめていくことになると思います。2月に予定されている見直し検討委員会では、パブリックコメントに出す内容をここで見ていただいて決めていくことになると思います。したがって、残り3回ほど本日のような形で全体構想について議論をしながら、少しずつ形にしていければと思っています。</p>
<p>事務局</p>	<p>次の9月上旬の検討委員会までに少し時間がありますので、それまでに本日頂いたご意見や市民意見等をまとめて叩き台のようなものを作成し、郵送させていただきます。それについてご意見を頂いて、次の検討委員会でまた議論していただくという流れにしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。</p>
<p>F 委員</p>	<p>◆ 委員会の間隔について</p> <p>委員会の間隔があまり空いてしまうと議論の内容を忘れてしまうので、なぜ毎月開催しないのかと思います。そのくらいは当然ではないでしょうか。観光に関して3年間くらい毎月検討していましたが、それであるくらいの完成度で、最後は核心ではない部分の方が厚く盛られた文章になって出ています。それは残念でしたが、方法としては反対ではありません。</p> <p>個人的には忙しい中で会議に出たくはありませんが、忙しいからこそ内容を忘れてしまうので、できるならもう少し会議をしたいと思います。今回も前回の話が飛んでしまっていますし、私の勉強不足で復習してこなかったのがいけないのですが、できればもう少し間隔を詰めて議論をしたいと思います。2月下旬に「これでいいですね」と言われて「それでいいです」と答えて終わるのであれば、極端な話では2月下旬の1回だけでも良いようなことになってしまいます。それはどうかと思いますので、意見として述べさせてい</p>

<p>委員長</p>	<p>たきます。</p> <p>そのような意見があったということで、事務局の方で検討していただきたいと思います。確かに、間隔が空くとせっかく話し合ったことを忘れてしまって、話をする中で思い出したり、認識を新たにしたりすることもあります。次回は9月というのは間が空きますので、やり方を考える必要があるかもしれません。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回は本日頂いた意見を整理して、もう一度まとめたものをお送りし、それを読み込んでいただいて、9月に集まって議論していただくという形にさせていただきますと思います。ただ、今後、そのようなご意見があるということでしたら、皆さんのスケジュールを合わせるのは難しい面もありますが、場合によっては組み方等の見直しもさせていただきたいと思います。当面はご提示したスケジュール案で置いておいていただければと思っています。貴重なご意見として検討させていただきます。ありがとうございます。</p>
<p>委員長</p>	<p>本日の会議も開始時間は明記されていますが、終了時間が示されていません。普通は2時間程度と考えて進めています、終了時間が書かれていないので、少し延びてもご容赦いただけるのではないかと思います。申し訳ありません。</p> <p>今後は情報提供の時間をとる等しながら、2時間半くらいまでご容赦いただいて、議論をしていただければと思います。次回までにまた整理されたものが提示されると思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>本日は以上で終了いたします。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>